

防災力アップで「自主防災委員会」開催！

— 東日本、能登半島被災から石神台防災体制の再構築を —

3月9日、石神台自主防災委員会（自治会防災部と自主防災委員会合同会議）が開催されました。「東日本大震災」後に活動を始めた石神台の自主防災体制も長期のコロナ禍で弱体化を免れず、構成員の高齢化も進んでいます。



しかし、再び「能登半島地震」の生々しい被害を目の前に、石神台の防災体制の再構築を望む声が上がってきています。

会議では、防災部を初めて体験した方々の感想をもとに議論が始まり、「街区役員で防災部を経験した人が増えている」「消防団員も3名と増えている」「転入の若い世帯も増えている」ことなどを確認し合い、再構築に向けた活発な意見交換ができました。

自然災害は石神台を避けることはありません。『防災』を生活の一部としながら石神台地域の防災力をみんなで高め合って行きましょう。東日本大震災から13年、そしてまた能登半島地震です。

この機会に、防災訓練へのご参加や自主防災員のご加入をお願いします。

能登半島地震…Hさんの感じたこと

連日能登半島地震が報じられています。かわら版編集委員のHさんに「どんなことを感じてますか…」と寄稿していただきました。
Hさん：「あえて一言述べるとすれば…」



- ① 今回の地震は、東日本震災の津波や、関東大震災の火災による被害ではなく、崩れた建物に挟まれ身動きが取れなくなったことによるところが大きいと思われます。
- ② 初期段階でシェイクアウトすること。また、建物から避難する時はブレイカーを確実に切ることが重要と思います。
- ③ 建物の被害は、熊本地震では倒壊家屋が34,900に対して今回は80,640でした。多くが老朽建物と耐震補強が不十分だったと思われます。建物全体の補強には多額の費用が掛かりますが、寝室のベット部分だけとか、室内シェルターを作るのであれば多額の費用は掛かりません。
- ④ 復旧段階で道路の不通が目立ちますが、振り返って我々の避難道路や救援道路は確保できているか確認しておく必要があります。

自分の身を守る！
シェイクアウトのやり方



路や救援道路は確保できているか確認しておく必要があります。

…以上、Hさんの感じたことですが、この期に能登半島地震を教訓に、私たちの周辺で身近な耐震補強や避難についてともに考えてみましょう。（了）

ここにマークは無事の印
訓練日みんなで出そう黄色旗



無事です

毎月の第1
土曜日 午前中

4月は6日
5月は4日
です。